

「人間とは何か」を問いつづける

私たちは人間学を基礎として幅広い視野を持つ、質の高い実践家を育成します。



田園調布学園大学大学院

人間学研究科

子ども人間学専攻

心理学専攻

幼稚園教諭専修免許状(子ども人間学専攻)、公認心理師(心理学専攻)が取得可能／長期履修制度有り
入学資格審査制度有り(短大卒業者、専門学校卒業者でも受験可能)／社会人特別入試を実施

田園調布学園大学大学院

人間学研究科 子ども人間学専攻／心理学専攻

田園調布学園大学大学院人間学研究科が目指すのは、

実践の中で省察ができる、「真の実践家」の養成。

自らが実践している保育や心理支援に即して「省察できる力」をはじめ、

多様なニーズに応える力や日々の実践の中で解決すべき課題を発見し、

適切かつ柔軟な対応を生み出せる力の養成を目的にしています。

子ども人間学専攻の教育の特色

「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」は、子どもという存在を通して、人間とは何かを探求し、子どもの育ちと保育のあり方を追究する学問です。「子ども人間学」を学ぶことで、子どもをめぐる現代社会の問題も含めて省察し、幅広い視点から現状の課題を探究・解決できる力を身につけることができます。

心理学専攻の教育の特色

人間学的学識に基づき、支援を求める個人や集団の多様性・多元性を尊重し、人々との関わりの中で省察する力を持った心理支援の専門家「公認心理師」を養成します。幅広い視点から現代社会が抱える心理支援の課題を探究・解決できる力を身につけ、質の高い高度な心理支援の実践家を目指すことができます。

複雑で多彩な人間の姿を学び、
「人間とは何か」を問いつづけることで
既成概念にとらわれない質の高い実践家へ。

田園調布学園大学 学長

生田 久美子



人間学研究科 子ども人間学専攻は、今年で開設8年目を迎えました。そして2019年には、心理職初国家資格「公認心理師」の誕生に合わせ、同研究科に新たに心理学専攻を新設して、現在は二専攻体制で大学院教育を進めています。これまで子ども人間学専攻では「子どもを人間としてみる」ことを重視し、保育・教育分野で日々生じる課題に自ら適切な解決策を導き出せる実践家の養成に力を注いできました。心理学専攻においても同様に、「心理学」という学問をベースに、質の高い専門家の養成を目指しています。

二つの専攻は、どちらも「人間を対象にする」という点で共通しています。それぞれ幼稚園教諭専修免許、公認心理師という資格取得を視野に入っていますが、本大学院ではそれ以上に、常に「人間とは何か」を問う姿勢を大切

にしてほしいと考えています。

幅広い視野を養い、従来とは異なる保育観、心理観を構築することを目指し、カリキュラムには両専攻とも必修科目に「人間学総論」「人間学概論」「人間学研究法」を組み込んでいます。特に人間学概論は本大学院における特徴的な科目であり、哲学、文学、政治、芸術、自然という、一見すると専門分野に必要なさそうなテーマと人間を関連付けて学びます。これらの領域において人間がどのように理解され、かつ描かれてきたかを知り、人間がいかに多様で複雑な生き物であるかを認識できれば、固定化された考えから解き放たれることができるのではないのでしょうか。こうした科目を学びながら、専門科目の履修に加えて研究指導を受けることで、真の意味での質の高い専門性が高まっていくと私は考えています。

長らく“子ども”“高齢者”“障害者”などと一括りにして「こういうものだ」と画一的に捉える傾向がありました。しかし、人間は一人一人が違う心を持ち、また一人の中にも多様な面があり重層的であるという当たり前のことを見直すべき時が来ています。

このことがまさに、本大学院が二つの専攻を「人間学研究科」の中に置いている理由に他なりません。広い視野を持ち、常に「人間とは何か」という問いに立ち返って一人一人に向き合う。そうすると、接する相手がどんな状況であれ、自ずと相手に対して尊敬の念を持つことができるにちがいません。

人間は複雑であり、だからこそ魅力的な存在です。学びを通じて人間の奥深さ、面白さについて、あらためて考えてみませんか。

相互に刺激し、高め合える環境で 自ら考え組み立てる力を養ってほしい。

田園調布学園大学 学長補佐
人間学研究科 研究科長 / 子ども人間学専攻

米山 光儀



子ども人間学専攻では、「子どもを人間としてみる」ことを軸としています。「子ども」という概念が生まれたのは実は近代になってからのことで、それ以前は「身体の小さな大人」として扱われていたのです。17世紀のこの「子どもの発見」以降、世界中で様々な教育や支援が広がっていきました。一方で、現代の我々はどうでしょう。「大人と違って独自である」とするあまり、子どもを「人間としてみる」という視点が欠如してしまっている側面はないでしょうか。とりわけ昨今の教育現場では効率化が求められる傾向にあり、多くの問題や行き詰まりが起こっています。そこでもう一度、「子どもの様子をよく見る」という原点に立ち返り、教育全体を立て直そうとい

うのが一つの大きなテーマとなっています。

本学院には20～60代の幅広い年代の院生が在籍しています。中でも保育園や幼稚園、小学校などで働きながら学ぶ人が多く、異なる経験を持つ者同士が互いに刺激し高め合える環境です。問題意識を抱きながら教育現場で働く人が大学院で学ぶことの意義として、普段自分が携わっている場から離れて客観視できることがあげられます。また、すぐに職場で活かせる即効性を追求めたり、単に手法を覚えたりするのではなく、広い視野でじっくりと研究に取り組み、自分で考え組み立てる力を養うことで、結果的に汎用性を持った成果が得られるだろうと思います。そういう意味で、「人間とは何なのか」

を突き詰めていく本学院での学びは、生涯学習の一環となるのではないのでしょうか。

「教育」とは私たちの身近にあるもので、いかにもよく知っているもののように思えます。その中で、当然のこととして捉えていること1つ1つを常に問い直し、自分自身を振り返りながら実践を重ねる「省察的实践家」としての素養を、ここで磨いてもらいたいと思います。



広い視野を持つ実践家を目指し、 可能性を信じて様々なことに 挑戦してください。

田園調布学園大学 副学長
人間学研究科 副研究科長 / 心理学専攻

伊東 秀幸

2017年に誕生した国家資格「公認心理師」は、医療・保健/福祉/教育/司法・犯罪/産業・労働と、5領域の広範囲な活動が想定されており、今後は専門知識やカウンセリング技術に加え、他の職種と連携がとれるコミュニケーション能力を兼ね備えた人材が求められています。

心理学専攻ではそんな次世代に活躍できる、広い視野を持った公認心理師の養成を目指しています。特長の1つとして、様々な経歴を持つ教員がおり、多様な視点からバランスよく指導できることが挙げられます。

私自身は、教員になる以前は、保健所の精神保健福祉相談員として相談業務や、こども

医療センターの心理職として心理支援にも携わっていました。他の教員には児童相談所の心理判定員、高齢施設での心理的支援、病院の精神科でのカウンセラーなど、各分野で活躍したスペシャリストが在籍しています。

少人数制のため各教員が一人一人とじっくり議論を重ね、目的に向かって共に研究を深めることができます。実習も重視しており、広範囲にわたって体験できるよう充実したカリキュラムを整えました。

また、資格を取得すれば終わりではなく、常に己と向き合い自己研鑽に努めることが欠かせません。「省察的实践家の養成」をコンセプトに掲げる本学の大学院での学びを通じ

て、その土台を養うことができるのではないのでしょうか。

もう一つ、心理職を志す人に大切にしてほしいことは、自分の可能性を信じることです。なぜなら自分で自分のことを諦めていては、クライアントに対しても限界を設けてしまいかねないからです。自分を信じ、人間を信じることを大切にしながら、様々なことに挑戦し、大きく飛躍してほしいと思います。

—— 専攻の概要

課程名称 人間学研究科 子ども人間学専攻 修士課程

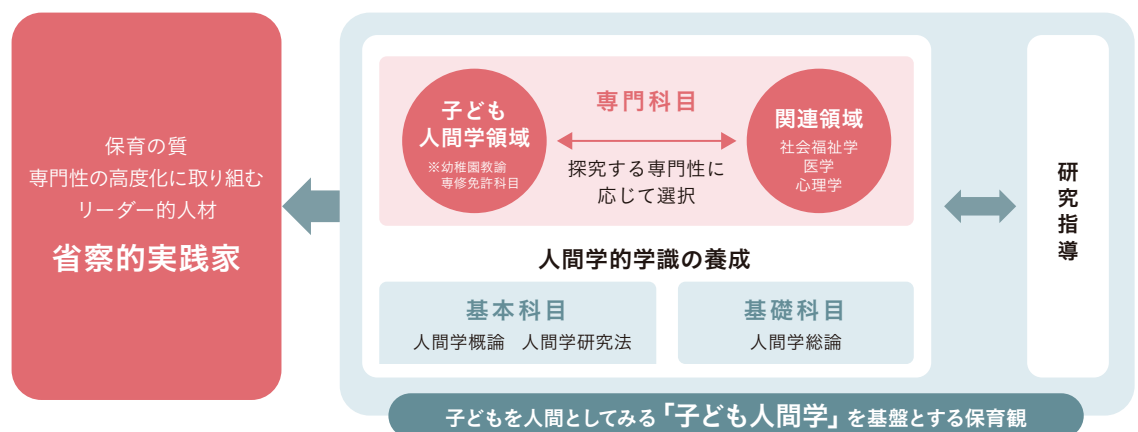
取得できる学位 | 修士(子ども人間学)

取得可能な資格 | 幼稚園教諭専修免許状

標準修業年限 | 2年 ※長期履修制度有り(修業年限を3年または4年に延ばすことが可能)

授業 | 平日夜間(18:20～)および土曜日

—— カリキュラム



基礎科目 | 「人間学総論」を通して、子ども人間学の基礎を養います。

基本科目 | 人間とは何かについて俯瞰的、包括的に探究できる[人間学概論Ⅰ(哲学と人間)][人間学概論Ⅱ(文学と人間)][人間学概論Ⅲ(政治と人間)][人間学概論Ⅳ(芸術と人間)][人間学概論Ⅴ(自然と人間)]を配置。省察的実践家としての基盤をしっかりと固めます。また、「人間学研究法」を通して、修士論文の作成方法や研究方法を身につけます。

専門科目 | 子どもを核とした複雑で多層的な保育実践を適確にとらえ、その背景や構造を読み解く力を「子ども人間学領域」と「関連領域」で養います。

子ども人間学領域

「子ども人間学」の観点から、子どもという存在を人間としてどのように理解するべきか、その文化思想的変遷、教育・学習発達観を問い直し探究するために、「学び学特論」「子ども思想史特論」「子どもとアート論」「子どもとことば論」「発達心理学特論」の5科目を用意。また、子どもの育ちや子育てを支える保育実践のあり方や実践における専門性の高度化に資する11科目も用意。こうした科目の履修を通して、自らの保育実践が、実践共同体となる園や施設・家族・地域社会・国および地方自治体・国際社会などどのように関連しているのかを吟味しつつ、専門性を高めていきます。幼稚園教諭専修免許状を取得するための科目も開講します。

関連領域

子どもの人権を保障して地域における日々の暮らしと幸福を支える社会福祉学分野、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本となる心身の健康と安全を守る医学分野、子ども一人ひとりの発達過程における経験の意味や実存について考える上で深く関与する心理学分野から、6科目を配置。これらの科目は、個々の学生の研究テーマや修了後に目指す具体的専門職への人材養成の観点から、探究する専門性に応じて選択可能な科目としています。

研究指導 | 「研究指導」は1年次から他の科目と並行して履修でき、自分自身が興味をもった研究テーマを熟成させながら、明確化できるようにします。1年次は主に研究方法の確立を目指し、予備調査などにより研究計画を練り上げていきます。2年次は、確立した研究方法をもって研究課題に取り組み、データの収集・解析などを行い、研究成果としてまとめていきます。

—— 開講科目一覧 (2022年度)

※開講科目および担当教員は変更になる場合があります

科目区分		科目名	担当教員	単位数	配当年次	開講	備考	
基礎科目		人間学総論	生田 久美子・米山 光儀	2	1年	前期	必修	
基本科目		人間学概論Ⅰ（哲学と人間）	尾崎 博美	2	1・2年	前期	選択	
		人間学概論Ⅱ（文学と人間）	安藤 公美	2	1・2年	後期	選択	
		人間学概論Ⅲ（政治と人間）	藤森 知子・國見 真理子	2	1・2年	前期	選択	
		人間学概論Ⅳ（芸術と人間）	安村 清美・三政 洋一	2	1・2年	後期	選択	
		人間学概論Ⅴ（自然と人間）	仙田 考	2	1・2年	前期	選択	
		人間学研究法	犬塚 典子・渡邊 由己	2	1年	前期	必修	
専門科目	子ども人間学領域	学び学特論	生田 久美子	2	1・2年	後期	選択	
		保育学特論	内藤 知美	2	1・2年	前期	選択	
		教育的ケアリング特論	吉國 陽一	2	1・2年	後期	選択	
		子ども思想史特論	米山 光儀	2	1・2年	後期	選択	
		保育実践研究	高嶋 景子	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		保育者特論	高嶋 景子	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		子ども・子育て支援実践研究	犬塚 典子	2	1・2年	後期	選択	
		児童家庭福祉特論	太田 由加里	2	1・2年	前期	選択	
		家族社会学特論	小玉 亮子	2	1・2年	後期	選択	
		子ども政策特論	渡邊 英則	2	1・2年	後期	選択	
		教育学特殊研究	米山 光儀	2	1・2年	前期	選択	
		子どもとアート論	安村 清美・斉木 美紀子	2	1・2年	前期	選択	
		子どもとことば論	内藤 知美	2	1・2年	後期	選択	
		子ども環境学特論	仙田 考	2	1・2年	後期	選択	
		発達心理学特論	横尾 暁子	2	1・2年	前期	選択	
	保育・教育課程研究	宮里 暁美	2	1・2年	後期	選択		
	関連領域	権利擁護特論	國見 真理子・長谷川 洋昭	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		障害児・者福祉特論（インクルーシブ論を含む）	新井 雅明	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		地域福祉特論	和 秀俊	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		生活環境学特論	山崎 さゆり	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		精神医学特論	中川 正俊	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		臨床心理学特論	寺沢 英理子	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		研究指導		研究指導Ⅰ	生田 久美子・米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・内藤 知美・仙田 考	2	1年	前期
研究指導Ⅱ				生田 久美子・米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・内藤 知美・仙田 考	2	1年	後期	必修
研究指導Ⅲ	生田 久美子・米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・内藤 知美・仙田 考			2	2年	前期	必修	
研究指導Ⅳ	生田 久美子・米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・内藤 知美・仙田 考			2	2年	後期	必修	

—— 修了要件

基礎科目2単位、基本科目中「人間学研究法」は必修、その他の基本科目から4単位選択必修、専門科目から14単位以上を修得、研究指導8単位を修得し、計30単位以上を修得すること。かつ、修士論文を提出してその審査に合格すること。

科目区分	履修区分	単位数
基礎科目	必修	2単位
	小計	2単位
基本科目	必修	2単位
	選択必修	4単位以上
	小計	6単位以上
専門科目	選択必修	14単位以上
	小計	14単位以上
研究指導	必修	8単位
	小計	8単位
合 計		30単位以上

—— 3つの履修モデル

履修モデル 1

子ども人間学を深く修めながら、幼稚園教諭専修免許の取得を目指す。

履修モデル 2

子ども人間学を深く修め、保育の質の向上に取り組める高度な専門的職業人を目指す。

履修モデル 3

多様な保育ニーズ現場に対応できる力や、地域子ども・子育て支援事業の実践者にふさわしい力の養成を目指す。

—— 専任教員紹介



生田 久美子 教授

主な担当科目
 ● 人間学総論 ● 学び学特論
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

18世紀に起こった「子どもの発見」は人間の歴史の上で大きな出来事でした。それは、「子どもを子どもとしてみる」という教育思想の出現でした。そして21世紀の今、子どもをみる見方が変容しつつあります。それは「子どもを人間としてみる」という思想の出現です。新たな思想を背景とする保育・教育実践はどのような可能性をはらんでいるのでしょうか。考えるだけでも、ワクワクしませんか。



米山 光儀 教授（研究科長）

主な担当科目
 ● 人間学総論
 ● 子ども思想史特論
 ● 教育学特殊研究
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

教育は、人間に固有の行為なのでしょうか。最近では、人間以外の動物でも教育が行われているといわれることがありますが、それは「教える」であって、教育ではないという意見もあります。では、「教える」と教育は異なるのでしょうか。人間以外の動物も学習はしますが、学習と教育の関係はどうなっているのでしょうか。教育は私たちの身近にありますので、よくわかっていえるように思いますが、もう一度根底から一緒に考え直してみませんか。



犬塚 典子 教授（副研究科長）

主な担当科目
 ● 人間学研究法
 ● 子ども・子育て支援実践研究
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもに関する学問は、身体的発達や認知能力について自然科学の方法で研究するものから、経済開発とかかわる国際比較研究、幼少期概念の分析から社会変化を解明する歴史的研究など、幅広いテーマと手法から成り立っています。人間形成全般とそれを支える価値や規範にかかわる学問であり、独創的、批判的、総合的な視座が必要となります。子どものような感性を大切に大学院での学びに活かして下さい。



安村 清美 教授

主な担当科目
 ● 人間学概論Ⅳ（芸術と人間）
 ● 子どもとアート論
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもの遊びを通した原初的なアート経験、先鋭の芸術家が提示するアート作品。何が同じで何が違うのでしょうか。遊びの根源であると考えられる創造的活動の過程への着目、或いは現存する様々なアートの表現形式がもつ輝きを解明することは、必然的に乳幼児期を端緒とする「人間」そのものへと回帰するはずで、さあ、ここからスタートです。



内藤 知美 教授

主な担当科目
 ● 保育学特論 ● 子どもとことば論
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

「子どもたちは生活と遊びを通して学ぶ。その過程は複雑であり多様であり、そして豊かである」。子どもたちが生活する中で生起する事柄を、たとえそれが断片であったとしても、精緻につなぎ合わせ、具体的なかつ明確なイメージを伴う「子どもの育ち」として捉えていく作業（研究）は、子どもを人間として見る目を養い、保育・教育が有する創造的側面への理解を深めます。「子ども」を核に、質の高い保育・教育のありようを考えていきましょう。



仙田 考 准教授

主な担当科目
 ● 人間学概論Ⅴ（自然と人間）
 ● 子ども環境学特論
 ● 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
 ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもは多様な環境とのかかわりを通して、多くを学び成長していきます。もの、場所、ひと、自然。子どもが環境に触れ、感じ、考える、その奥底にはなにがあるのか。環境の構成、その変容、また空間のデザインが子どもたちの気づきにどう関係するのか。豊かな子どもの育ちを培う子ども環境のあり方とはなにか。子どもと環境、そのつながりの世界を、センス・オブ・ワンダー（ふしぎがる・面白がる）な心を持って、ともに見て考えていきましょう。

—— 修士論文テーマ一覧

年度	論文タイトル	指導教員	
		主指導教員	副指導教員
令和3年度	協同性を育むための保育者の身体的援助—幼稚園5歳児の活動のビデオ分析から—	犬塚 典子 教授	安村 清美 教授
	看護師の熟達と看護におけるケアに関する研究—中堅（ベテラン）看護師の語りから—	安村 清美 教授	生田 久美子 教授
	「こどものまち」の実践と子どもの地域社会への参画—J.デュエイ、R.ハート、J.レイヴとE.ウェンガーの理論を基礎にして—	生田 久美子 教授	米山 光儀 教授
	保育所等における児童虐待予防のための子育て支援—園長インタビュー調査のM-GTAによる分析—	犬塚 典子 教授	高柳 瑞穂 准教授



異業種からの転身で刺激的な日々 保育の奥深さに向学心を掻き立てられます

人間学研究科 子ども人間学専攻
修士課程2年

上田 敦史 さん

出身大学:東京農業大学

祖父が創設した幼稚園を母が園長として引き継いでおり、いずれは家業に関わりたと思っていましたが、まずは多角的な視野を身につけるため、全く別分野の農業大学の造園科学科を卒業し、最近までは地方局でアナウンサーをしていました。コロナ禍でエッセンシャルワーカーに注目が集まる中、保育業界も同様に社会の重要なインフラであると強く感じ、このタイミングで本格的に保育について学ぼうと進学を決めました。現在はフリーアナウンサーとして活動しながら、独学で保育士の資格取得のために勉強しています。並行して大学院に通おうと思ったのは、保育にまつわる最新の情報や現場の生の声を知っておきたかったからです。少人数制で対

話に重点をおいている点に惹かれ、数ある大学院の中からここを選びました。アナウンサーとして経験した「読み聞かせ」をテーマに研究したいと考えていますが、入学してみると想像以上のフィールドが広がっていて、他にも学びたいことがたくさん出てきました。特に「園庭」についての授業は、大学時代に学んだこととリンクしていて、とても興味深いです。異業種から来た私を気にかけてくださる先生からは、「まずは言葉のシャワーを浴びて専門知識をたくさん蓄えなさい」と励ましていただきました。今はとにかく全てを吸収しようと毎日必死ですが、とても充実しています。共に学ぶ同期の存在も刺激になっています。現役の園長先生や、保育園の先生、看護師さんなど、様々な分野の方がいて、講義の時間以外にもそれぞれの現場の話聞けるので、日々発見があります。

「子どもを一人の人間として見る」という考えを聞いてからは、子どもたちとの接し方も大きく変わりました。あらためて保育の世界の奥深さを実感し、母との会話も増えました。私から業界の最新の動向を報告したり、運営する幼稚園の伝統を母から教えられたりしながら、自分たちがこの先どういった保育をしていくのかを、建設的に話し合えるようになりました。今後活かせるよう、引き続き学びを深めていきたいですね。

修了生 MESSAGE

ESDの視点に立った 幼児教育の実践を

ももとは音楽関係の仕事をしていましたが、実家が代々幼稚園を経営しており、4代目として引き継ぐことになりました。幼稚園教諭一種免許状は通信で取得しましたが、実際に自分が園長となって運営していくにあたって、大学院で論文を書くことを通して経験値を上げたいと思い3年間学ぶことにしました。

在学中に着目していた研究は「幼児教育におけるESD (Education for Sustainable Development) の実践」についてです。「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」「環境問題や人権問題など社会的なテーマを考え実践していくことを身につける」というESDの考えが、小中高、大学の教育現場では浸透しているにも関わらず、幼児教育の現場ではほとんど知られていませんでした。そこで未来のために幼児教育の中でどのように実践していくべきかを考察することにしました。その中で注目したのが、「皮膚接触コミュニケーション」です。子ども、親、保育者といった幼稚園に存在する多元的な関係者間で手をつなぐなど、言葉ではなく皮膚の温もりを通した非言語のコミュニケーションを交わすことにより、相手とのつながりを感じられ、その経験や記憶が、持続可能な地域づくりに寄与するのではと、ESD実践の1つとして修士論文のテーマに選びました。

卒業後も運営する園で皮膚接触コミュニケーションの実践を続けていましたが、コロナ禍となった2020年はそれが叶わなくなりました。閉塞感が漂う中、子どもたちにどうにかしてわくわくする経験をつくれなかと模索し、「異文化交流プログラム わくわくオンライン」を企画。フィリピン、ニュージーランド



人間学研究科 子ども人間学専攻
修士課程修了

岡 秀樹 さん

勤務先:学校法人久光学園
志のぶ幼稚園 園長

の子どもたちと園児をオンラインでつなぎ、互いの国の文化や伝承遊びを伝え合うプログラムを実践、また海外施設の保育者と合同研修を行いました。図らずもESDに直結する取り組みとなり、大きな手ごたえを感じましたね。大学院時代の恩師に背中を押していただき、この取り組みをまとめた報告書を提出したところ、日本人2人目となる、世界OMEF(世界幼児教育機構)主催ESDアワード2021を受賞することができました。

大学院に入って特によかったと思うことの1つが、視野を広く持てるようになったことです。教授からの教え、様々なバックボーンを持つ仲間との出会い、保育だけでなく、政治や哲学、自然など、幅広い分野の文献を読み学べたこと。これらの経験によって、自分の立ち位置や園のことを客観的に見られるようになりました。もしも大学院に入っていなければ、自分の園の世界がすべてで、主観でしか保育をできていなかったかもしれませんね。

—— 専攻の概要

課程名称 人間学研究科 心理学専攻 修士課程

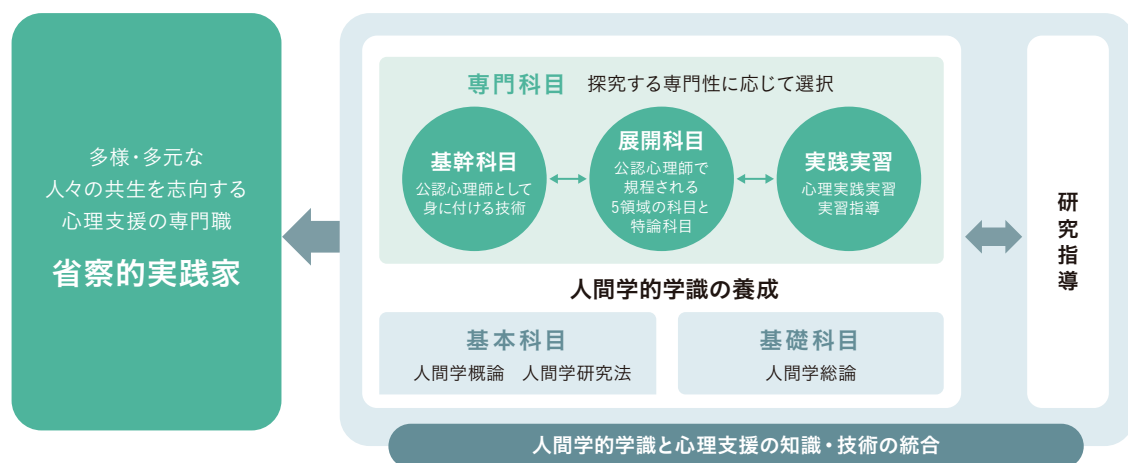
取得できる学位 | 修士(心理学)

取得可能な資格 | 公認心理師(受験資格)

標準修業年限 | 2年 ※長期履修制度有り(修業年限を3年または4年に延ばすことが可能)

授業 | 平日夜間(18:20～)および土曜日

—— カリキュラム



基礎科目 | 「人間学総論」を通して、人間学的学識の基礎を養います。

基本科目 | 人間とは何かについて俯瞰的、包括的に探究できる[人間学概論Ⅰ(哲学と人間)]、[人間学概論Ⅱ(文学と人間)]、[人間学概論Ⅲ(政治と人間)]、[人間学概論Ⅳ(芸術と人間)]、[人間学概論Ⅴ(自然と人間)]を配置。省察的実践家としての基盤をしっかりと固めます。
また、「人間学研究法」を通して、修士論文の作成方法や研究方法を身につけます。

専門科目 | 公認心理師養成カリキュラムを主体として、心理支援に関する理論と実践及び特論科目から、人々の多様性、多元性を尊重し心理的困難を抱える人々の心を適確にとらえ、その背景や本質を読み解く力を「基幹科目」、「展開科目」、「実践実習科目」で養います。

基幹科目

心理師として、核となる理論や実践を「心理的アセスメントに関する理論と実践」、「心の健康教育に関する理論と実践」、「心理支援に関する理論と実践」、「家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」から学びます。

展開科目

展開科目では、基幹科目を踏まえて公認心理師法で規定される5領域「保健・医療」、「福祉」、「教育」、「産業・労働」、「司法・犯罪」における心理支援の展開に関する科目に加え、特論科目から心理師として、より高度で専門性が求められる知識や技能の修得を目指します。

実践実習科目

実践実習科目は、公認心理師養成カリキュラムにおける実習に関する科目であり、合計450時間の実習を3科目に分けて実施します。対人援助の現場において、面接陪席、心理検査実習、病棟実習、グループ活動の陪席、スーパーヴィジョン、ケースカンファレンスなどの心理臨床の現場を学ぶ貴重な機会となります。

研究指導

「研究指導」は1年次から他の科目と並行して履修でき、自分自身が興味をもった研究テーマを熟成させながら、明確化できるようにします。1年次は主に研究方法の確立を目指し、予備調査などにより研究計画を練り上げていきます。
2年次は、確立した研究方法をもって研究課題に取り組み、データの収集・解析などを行い、研究成果としてまとめていきます。

—— 開講科目一覧 (2022年度)

※開講科目および担当教員は変更になる場合があります

科目区分	科目名	担当教員	単位数	配当年次	開講	備考		
基礎科目	人間学総論	生田 久美子・米山 光儀	2	1年	前期	必修		
基本科目	人間学概論Ⅰ（哲学と人間）	尾崎 博美	2	1・2年	前期	選択		
	人間学概論Ⅱ（文学と人間）	安藤 公美	2	1・2年	後期	選択		
	人間学概論Ⅲ（政治と人間）	藤森 知子・國見 真理子	2	1・2年	前期	選択		
	人間学概論Ⅳ（芸術と人間）	安村 清美・三政 洋一	2	1・2年	後期	選択		
	人間学概論Ⅴ（自然と人間）	仙田 考	2	1・2年	前期	選択		
	人間学研究法	犬塚 典子・渡邊 由己	2	1年	前期	必修		
専門科目	基幹科目	心理的アセスメントに関する理論と実践	寺沢 英理子・筒井 順子	2	1年	前期	必修	
		心の健康教育に関する理論と実践	伊東 秀幸	2	1年	前期	必修	
		心理支援に関する理論と実践	伊東 正裕・新井 彩加	2	1年	後期	必修	
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	渡邊 由己	2	1年	後期	必修	
	展開科目	カウンセリング特論	伊東 正裕	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		精神医学特論	中川 正俊	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		リハビリテーション心理学特論	久保 義郎	2	1・2年	前期	選択・隔年	
		精神保健医療心理学特論	伊東 秀幸	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		コミュニティ臨床心理学特論	渡邊 由己	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		認知行動療法特論	久保 義郎	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		臨床心理学特論	寺沢 英理子	2	1・2年	後期	選択・隔年	
		心理支援技術演習	伊東 秀幸・伊東 正裕	1	1年	前期	選択	
		公認心理師総合演習Ⅰ	渡邊 由己・櫻井 優太	1	2年	前期	選択	
		公認心理師総合演習Ⅱ	渡邊 由己・櫻井 優太	1	2年	後期	選択	
		保健医療分野に関する理論と支援の展開	伊東 秀幸	2	1年	前期	必修	
		教育分野に関する理論と支援の展開	渡邊 由己	2	1年	前期	必修	
		福祉分野に関する理論と支援の展開	小山 望	2	1年	後期	必修	
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	松嶋 祐子	2	2年	前期	必修	
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	伊東 正裕	2	1年	後期	必修	
		実践実習科目	心理実践実習指導Ⅰ	伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	1	1年	後期	選択
			心理実践実習Ⅰ	伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪・五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加	1	1年	後期	選択
			心理実践実習指導Ⅱ	伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	1	2年	前期	選択
	心理実践実習Ⅱ		伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪・五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加	1	2年	前期	選択	
	心理実践実習指導Ⅲ		伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	1	2年	後期	選択	
	心理実践実習Ⅲ		伊東 秀幸・渡邊 由己・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪・五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加	1	2年	後期	選択	
	研究指導	研究指導Ⅰ	伊東 秀幸・渡邊 由己・中川 正俊・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	2	1年	前期	必修	
研究指導Ⅱ		伊東 秀幸・渡邊 由己・中川 正俊・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	2	1年	後期	必修		
研究指導Ⅲ		伊東 秀幸・渡邊 由己・中川 正俊・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	2	2年	前期	必修		
研究指導Ⅳ		伊東 秀幸・渡邊 由己・中川 正俊・伊藤 正裕・寺沢 英理子・小山 望	2	2年	後期	必修		

—— 修了要件

基礎科目2単位、基本科目中「人間学研究法」は必修、その他の基本科目から4単位選択必修、専門科目から18単位以上を修得、研究指導8単位を修得し、計34単位以上を修得すること。かつ、修士論文を提出してその審査に合格すること。

科目区分	履修区分	単位数
基礎科目	必修	2単位
	小計	2単位
基本科目	必修	2単位
	選択必修	4単位以上
	小計	6単位以上
専門科目	必修及び選択	18単位以上
	小計	18単位以上
研究指導	必修	8単位
	小計	8単位
合 計		34単位以上

—— 2つの履修モデル

履修
モデル
1

公認心理師の取得を目指し、
高度な専門職として地域の心理支援を目指す。

履修
モデル
2

対人支援専門職である者が、
人間学的学識を備えた高度な心理支援の
実践家や研究者を目指す。

—— 専任教員紹介



伊東 秀幸 教授 (副研究科長)

主な担当科目

- 心の健康教育に関する理論と実践
- 精神保健医療心理学特論 ●心理支援技術演習
- 保健医療分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

公認心理師を含む対人援助職には、カウンセリング技術のような臨床技術を修得するだけでなく、対象となる人そのものの理解と人を取り巻く環境となる社会を理解する必要があります。社会の理解とは、法律や制度、文化などといった側面とそれらの歴史を意識した学修になります。広い視野をもった高度専門職養成が、本専攻の目的の一つだと思います。多様な視点から議論し、目的に向かって一緒に研究を深めていきましょう。



中川 正俊 教授

主な担当科目

- 精神医学特論
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

我々の「こころ」は、宇宙や深海、生命進化などと並んで知的好奇心をそそられる「謎」に満ちた領域の一つです。「こころ」の病も未解明なことが多く、常識とされることさえ刻々と変化します。「こころ」を科学するという再帰的なメタ作業は眩暈を覚えるほどに困難ですが、「こころ」の病と派生する生活のしづらさに苦悩する人々に心を寄せつつ、この場に踏みとどまり科学してみませんか。わかったつもりにならずに、わからないと諦めずに。



寺沢 英理子 教授

主な担当科目

- 臨床心理学特論
- 心理的アセスメントに関する理論と実践
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

心は自由を求め、他者との交流を求め、そして自己表現を求めます。これらが満たされた時、私たちの生は輝き、豊かな実りが得られます。一方で、心は複雑かつ繊細で、不安に脅かされやすく、すぐに殻に閉じこもってしまいます。心の専門家の仕事は、傷つき弱った心の回復を手助けし、心の安全を保てるよう支えること。そのための専門知識と勇気の獲得を目指して、まずは自分の心の葛藤を見つめ、紐解き、考えることから始めましょう。



櫻井 優太 准教授

主な担当科目

- 公認心理士総合演習Ⅰ ●公認心理士総合演習Ⅱ
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ

私の専門は他の先生とは異なる領域で、感情心理学・生理心理学を専門としています。さらに、研究手法として実験を主に用いています。臨床ではない、いわゆる基礎心理学と呼ばれる分野です。この場合の「基礎」は決して「簡単・単純」という意味ではありません。人間の心理的機能に関する一般的な法則性や傾向を理解し、人間の心を理解していこうという学問領域です。ぜひ一緒に、心理学の最先端を歩んでみましょう。



渡邊 由己 教授

主な担当科目

- 人間研究法 ●家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
- コミュニティ臨床心理学特論
- 教育分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

私の専門はコミュニティ心理学、臨床心理学です。高齢者や大学生への心理支援、多職種チームによる支援活動での心理専門職の役割に関する研究や実践、教育活動が主なものです。

公認心理師という新たな国家資格を踏まえ、心理学がこれまで以上に社会へ貢献出来るよう、みなさんと共に精進していきたいと思っています。



伊東 正裕 教授

主な担当科目

- 心理支援に関する理論と実践
- カウンセリング特論 ●心理支援技術演習
- 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

「カウンセラーは特別な能力を必要としない。当たり前のことを当たり前にする。それを続けること」などと言われます。しかし心理臨床の現場ではそれが一番難しく、安易に行くと、来談者ばかりか臨床家自身の心が侵される危険もあります。来談者の深い問いかけに気づき、苦痛を受け止めるには、専門理論や技法を十分に学ぶと共に、自分を深く振り返る姿勢が必要です。そのような姿勢をもって、と一緒に研鑽を積んでいきましょう。



小山 望 教授

主な担当科目

- 福祉分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ●心理実践実習Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ●研究指導Ⅱ ●研究指導Ⅲ ●研究指導Ⅳ

専門は共生社会に向けた心理教育と心理支援です。とくに障がい児(者)の人間関係づくりのための心理支援に関心があります。障がいがあるなしにかかわらず誰もが尊重される社会にとって、福祉・心理支援はどうあるべきでしょうか。人々の多様性を受け入れる教育のひとつにインクルーシブ教育があります。この教育がもつ可能性と課題を明らかにするため、研究を進めるとともに心理臨床家としてのスキルを磨いていきましょう。

—— 修士論文テーマ一覧

年度	論文タイトル	指導教員	
		主指導教員	副指導教員
令和3年度	自己決定が困難な障害のある人の意思決定を支える支援ー共同で行う意思決定を焦点としてー	伊東 秀幸 教授	伊東 正裕 教授
	大学生の自粛生活における家族との関わりに関する研究ー「家族の結びつき認知」尺度の作成とその活用ー	渡邊 由己 教授	伊東 正裕 教授
	SNS依存傾向と不合理な信念及びセルフ・モニタリングの関連	伊東 秀幸 教授	中川 正俊 教授



「学び」から「探求」へ 幅広く学んで将来につなげたい

人間学研究科 心理学専攻
修士課程2年

青木 春香 さん

出身大学: 田園調布学園大学

小・中・高と身近に不登校の友人が何名かいました。何とか力になれないかと、手紙を書いて渡したり、様々なアプローチで接してみましたが、どうしても学校に来れない子もいて、私自身、力不足や心残りを感ずることがありました。この経験から不登校で悩む子どもたちを支えたいと思い、公認心理師を目指すようになりました。大学で心理福祉学を学ぶ中で、子どもの不登校という事実だけを問題視するのではなく、家庭や学校の環境、さらには親の職場の環境まで、様々なことに目を向けなければいけないと気づきました。ボランティア先で多くの母親と接する機会があったことをきっかけに、卒業研究では障害のあるお子さんを持つ母親に焦点を当て、現在、「母親への心理支援」についてさらに研究を重ねたいと考えています。

大学では「学ぶ」に留まっていましたが、大学院では先生やゼミ生との対話を交えながら「探求」していけるのが楽しいです。少人数のため、授業では一人一人の研究分野を考慮した話題や事例を取り上げてくださり、とても濃く、充実した時間を過ごせていますね。一方、公認心理師になれば幅広い知識や対応が求められるので、自分の興味の薄い分野であっても気は抜けません。その点においても、こちらの理解の足りない部分を察知して具体例などでわかりやすく伝えてくださるので心強いです。質問しやすい環境というのも安心ですね。同期や先輩方の経歴は多様で、自分の経験だけでは辿り着けない考え方を知ることができるなど、日々刺激を受けています。様々な角度から学びを深められるのは大きな魅力だと思いますね。はじめは社会人経験のない私がついていけるかどうか不安もありましたが、同じように大学から進まれた先輩から「自分にできることを一生懸命やればいいんだよ」とアドバイスをいただき、これまで携わったボランティアや大学での経験を生かして自分なりに精一杯頑張ろうと、気持ちを前向きに切り替えることができました。将来は、母親への支援を重点的にしたいと考えていますが、最近では「母親の職場の環境」という分野にも興味があります。1つのことにこだわり過ぎずに、できる限り幅広く学んでいきたいと思っています。

次世代の育成に心理学を活かし 日本の介護職の未来に貢献したい

田園調布学園大学で介護福祉を学び、卒業後は介護士として働いてきました。日本だけでなく、アメリカ、デンマーク、フィリピンなど、海外の介護現場も経験し、天職だと思えるほどの大きなやりがいを感じていましたが、次第に「経験を活かして後進の教育に携わりたい」と思うようになり、そのためにはもっと深く学ぶ必要があると感じて、大学院への進学を決めました。心理学を専攻したのは、私のように介護の仕事が大好きという人がいる一方で、精神を患い辞職する同僚を何人も見てきて、この差がどこで生まれてしまうのか疑問を抱いていたからです。これまでに介護士の「ストレス」や「燃え尽き症候群」といったマイナス面の研究は数多くされていますが、プラス面の研究がまだまだ少ないということを知り、今後必ず求められるテーマだと思い「介護職員の満足感と有能感」について研究することにしました。心理学は初めてで基礎からのスタートでしたが、介護職との共通点も多く、たくさんの気づきを得ることができました。仕事を続けながらの研究はもちろんハードでしたが、それ以上に学びの多い充実した2年間でした。教授との距離が近く、授業外でも職場で感じた疑問を打ち明けることができましたが、いつも親身になってくださいました。高齢者との関わりは少ない分野の先生がほとんどでしたが、悩みを抱える同僚への声のかけ方や、アプローチ方法など、いただいたアドバイスを活かせることが何度もあり、福祉の現場での心理学の必要性を体感しました。



人間学研究科 心理学専攻
修士課程修了

高谷 明子 さん

勤務先: 田園調布学園大学 人間福祉学部
社会福祉学科 助教

修士論文を書き上げて強く感じたのは、やはり教育がいかに大切かということです。研究を通じて、介護職員の満足感や有能感が相関し、高齢者と接する中で影響を及ぼし合う可能性があることが明らかになりました。知識を詰め込むだけの勉強ではなく、自分の頭で考え、心で感じて、声に出すことで「自分自身を客観的に見つめる力」を養うことが、現場に出てからの満足感へとつながると考えています。ご縁が重なり、この春から田園調布学園大学の人間福祉学部で助教を務めています。試行錯誤の毎日ですが、さっそく心理学の視点を交えて授業を展開することを心掛けています。これからも探求を続け、「自分自身が輝きながら、真に高齢者に寄り添える介護士」の育成に尽力したいです。

2023年度 入学者選抜試験日程 (子ども人間学専攻・心理学専攻 共通日程)

区分	入試制度	選考方式	出願期間	選考日	合格発表	手続締切日
Ⅰ期	一般入試Ⅰ期	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査	2022年9月26日(月) ～10月7日(金) (消印有効)	2022年 10月15日(土)	2022年 10月18日(火) (郵送)	2022年 10月28日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅰ期	・小論文・口述試験(面接) ・書類審査				
	社会人入試Ⅰ期	・口述試験(面接) ・書類審査				
Ⅱ期	一般入試Ⅱ期	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査	2022年11月14日(月) ～11月25日(金) (消印有効)	2022年 12月3日(土)	2022年 12月6日(火) (郵送)	2022年 12月16日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅱ期	・小論文・口述試験(面接) ・書類審査				
	社会人入試Ⅱ期	・口述試験(面接) ・書類審査				
Ⅲ期	一般入試Ⅲ期	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査	2022年12月26日(月) ～2023年1月13日(金) (消印有効)	2023年 1月21日(土)	2023年 1月24日(火) (郵送)	2023年 2月3日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅲ期	・小論文・口述試験(面接) ・書類審査				
	社会人入試Ⅲ期	・口述試験(面接) ・書類審査				
Ⅳ期	一般入試Ⅳ期	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査	2023年1月30日(月) ～2月10日(金) (消印有効)	2023年 2月18日(土)	2023年 2月21日(火) (郵送)	2023年 3月3日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅳ期	・小論文・口述試験(面接) ・書類審査				
	社会人入試Ⅳ期	・口述試験(面接) ・書類審査				

※2022年12月29日(木)～2023年1月3日(火)は、大学事務局の年末年始休業期間になります。
上記期間に発送した郵便物の本学への到着は、1月4日(水)午後になります。

入学資格審査

◆ 入学資格審査制度 | 短大卒業者や専門学校卒業者にも受験チャンス

短大卒業者や専門学校卒業者であっても、入学試験前に入学資格審査を受けることによって、本学が大学卒業者と同等以上の学力があると認めた場合入学試験を受けることができます。入学資格審査については、大学院事務室までお気軽に問い合わせください。

● 入学資格審査から大学院入学までの流れ



● 入学資格審査日程

区分	選考方法	受付期間	審査日	結果発表	備考
1回目	書類選考 ※必要に応じて 面接を実施します。	2022年8月29日(月) ～9月9日(金)(消印有効)	2022年9月17日(土)	2022年9月21日(水) (郵送)	Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
2回目		2022年9月26日(月) ～10月7日(金)(消印有効)	2022年10月15日(土)	2022年10月18日(火) (郵送)	Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
3回目		2022年11月14日(月) ～11月25日(金)(消印有効)	2022年12月3日(土)	2022年12月6日(火) (郵送)	Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
4回目		2022年12月19日(月) ～2023年1月3日(火)(消印有効)	2023年1月7日(土)	2023年1月12日(水) (郵送)	Ⅳ期 入試出願可能

—— 忙しい社会人に対応した、学習環境

◆ 授業は、平日夜間・土曜日に開講

社会人の方が就業しながら通学できるように平日夜間（18:20～）と土曜日に授業を開講します。

授業時間		月～金	土
1限目	9:00～10:30		授業時間
2限目	10:40～12:10		
3限目	13:00～14:30		
4限目	14:40～16:10		
5限目	16:20～17:50		
6限目	18:20～19:50	授業時間	
7限目	20:00～21:30		

◆ 長期履修制度

仕事が忙しい社会人学生を対象に、修業年限を延長し計画的に履修できる 長期履修制度を整えています。

長期履修制度を利用し、修業年限を3年または4年に延長した場合でも、授業料・施設費・教育充実費は2年間分で済みます。

※入学試験時又は入学後に申請することができます。

※入学後一回に限り、長期履修期間を見直すこともできます。

対象	常勤の職業を有する者または、育児・介護等の事情により2年間の標準修学年限での履修が困難な者。
長期履修期間	3年または4年

—— 奨学金制度

◆ 日本学生支援機構の奨学金（貸与）

日本学生支援機構の奨学制度は、人物・学業ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により就学困難な者に、学資の貸与を行い教育の機会均等を図ろうとする奨学金制度です。

奨学金名称	主な条件		金額
日本学生支援機構 第1種 （無利子）	成績	大学もしくは大学院における成績が特に優秀	月額 5.5・8.8 万円(貸与) ※上記の月額から選択
	収入	本人もしくは配偶者の年収が日本学生支援機構の定める収入基準以下であること	
日本学生支援機構 第2種 （有利子）	成績	大学等における平均水準以上	月額 5.0・8.0・10.0・ 13.0・15.0 万円(貸与) ※上記の月額から選択
	収入	本人の年収が日本学生支援機構の定める収入基準以下であること	

—— 学費

子ども人間学専攻

● 標準修業年限（2年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	入学時のみ
授業料	250,000	250,000	250,000	250,000	
施設費	100,000	100,000	100,000	100,000	
教育充実費	50,000	—	50,000	—	
納付金合計	600,000	350,000	400,000	350,000	
年間納付金額	950,000		750,000		

● 長期履修学生制度（3年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	—	—	入学時のみ
授業料	170,000	170,000	165,000	165,000	165,000	165,000	
施設費	70,000	70,000	65,000	65,000	65,000	65,000	
教育充実費	40,000	—	30,000	—	30,000	—	
納付金合計	480,000	240,000	260,000	230,000	260,000	230,000	
年間納付金額	720,000		490,000		490,000		

● 長期履修学生制度（4年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	—	—	—	—	入学時のみ
授業料	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	
施設費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
教育充実費	25,000	—	25,000	—	25,000	—	25,000	—	
納付金合計	400,000	175,000	200,000	175,000	200,000	175,000	200,000	175,000	
年間納付金額	575,000		375,000		375,000		375,000		

※本学出身者の入学金は、100,000円。

※納付金の納入時期は、初年度は入学手続時と後期（9月）に分納。2年次以降は前期（4月）・後期（9月）に分納。

※本学の教育研究活動の充実及び施設設備の拡充を図るため、入学後、任意の寄付金のご協力をお願いすることがあります。

※終了年次の納付金（後期分）に合わせて、同窓会費20,000円を別途納入いただきます。

子ども人間学専攻

入学者受入れの方針 アドミッションポリシー

人間学研究科子ども人間学専攻では、次のような資質や素養を有する者に入学を許可します。

- ◆ 人間学的学識に基づく人間学の基礎を学び、また保育・教育の現場での経験を省察し、大学院での学問的探究に積極的に取り組むことができること。
- ◆ 子どもへの関心と共感を持ち、その育ちを支える実践や環境づくりに積極的に取り組み、子ども人間学の研究に携わろうという意欲があること。
- ◆ 幼稚園・認定こども園・保育所・その他の児童福祉施設あるいは地域子ども・子育て支援事業の関連施設における保育・教育の充実に関わろうとし、そのために自らの研究を進めようとする意欲があること。

心理学専攻

● 標準修業年限（2年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	入学時のみ
授業料	250,000	250,000	250,000	250,000	
施設費	100,000	100,000	100,000	100,000	
教育充実費	50,000	-	50,000	-	
実習費	40,000	40,000	40,000	40,000	
納付金合計	640,000	390,000	440,000	390,000	
年間納付金額	1,030,000		830,000		

● 長期履修学生制度（3年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	-	-	入学時のみ
授業料	170,000	170,000	165,000	165,000	165,000	165,000	
施設費	70,000	70,000	65,000	65,000	65,000	65,000	
教育充実費	40,000	-	30,000	-	30,000	-	
実習費	30,000	30,000	30,000	30,000	20,000	20,000	
納付金合計	510,000	270,000	290,000	260,000	280,000	250,000	
年間納付金額	780,000		550,000		530,000		

● 長期履修学生制度（4年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	-	-	-	-	入学時のみ
授業料	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	
施設費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
教育充実費	25,000	-	25,000	-	25,000	-	25,000	-	
実習費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
納付金合計	420,000	195,000	220,000	195,000	220,000	195,000	220,000	195,000	
年間納付金額	615,000		415,000		415,000		415,000		

※本学出身者の入学金は、100,000円。

※納付金の納入時期は、初年度は入学手続時と後期(9月)に分納。2年次以降は前期(4月)・後期(9月)に分納。

※本学の教育研究活動の充実及び施設設備の拡充を図るため、入学後、任意の寄付金のご協力をお願いすることがあります。

※終了年次の納付金(後期分)に合わせて、同窓会費20,000円を別途納入いただきます。

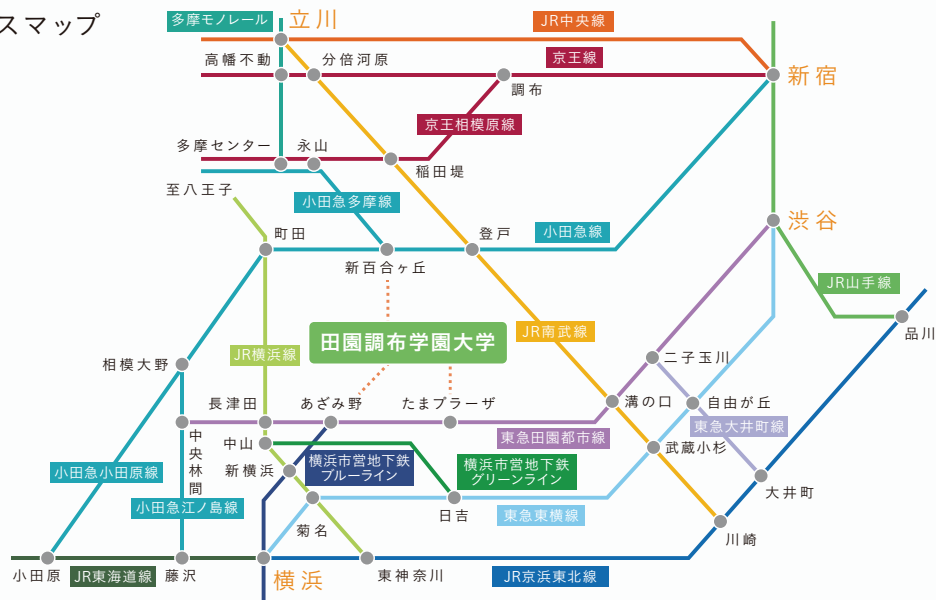
心理学専攻

入学者受入れの方針 アドミッションポリシー

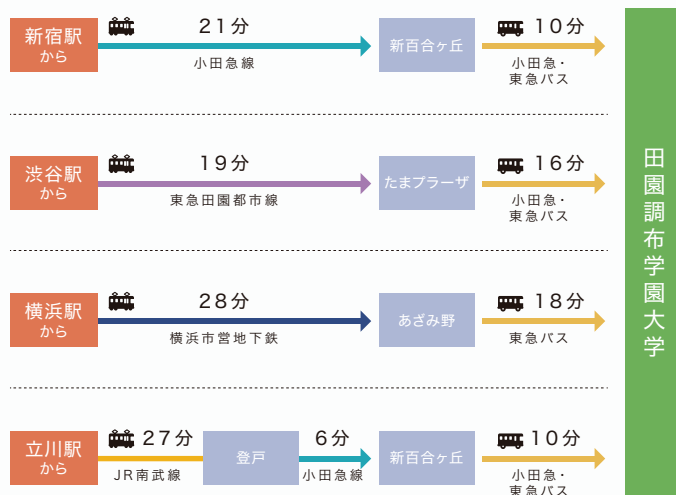
人間学研究科心理学専攻では、
次のような資質や素養があり、本専攻の教育課程及び教育・研究の指導体制に従って学術の研究を進め、
それぞれの修学目的を達成する見込みがある者に入学を許可します。

- ◆ 知識・技能 ————— 心理学研究に不可欠な専門的基礎知識、特に心理支援に必要とされる心理アセスメント、介入についての基礎知識、技術を身に付けていること。
- ◆ 思考力・判断力・表現力 — 心理学研究遂行に必要な倫理的判断力、思考力及び表現力を身に付けていること。
- ◆ 意欲・関心・態度 ————— 建学の精神「捨我精進」に沿って、他者と協同して教育・研究・実践に当たることができ、人間の多様性、多元性の共生を志向する心理支援の専門家として社会に貢献する目標を持っていること。

アクセスマップ



主な駅からの大学への所要時間



徒歩マップ



最寄駅からのバス便

- 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車→小田急バス⑦番のりば「田園調布学園行」終点下車（バス約10分）
- 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車→小田急バス⑦番のりば「たまプラーザ駅行」田園調布学園前下車（バス約10分）
- 東急田園都市線「たまプラーザ駅」下車→東急バス・小田急バス⑥番のりば「新百合ヶ丘駅行」田園調布学園前下車（バス約16分）
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄「あざみ野駅」下車→東急バス④番のりば「田園調布学園大学行」終点下車（バス約18分）

入学
相談会

2023年
8/27(土) 9/10(土) 11/5(土) 12/4(日) 1/21(土)

研究室訪問や授業見学は、希望者と日程調整のうえ随時対応します。大学院事務室までお問い合わせください。

DCU
田園調布学園大学大学院

お問い合わせ先 田園調布学園大学 大学院事務室 Tel. 044-966-3565(直通) Fax. 044-955-4345
〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘3-4-1
Mail : m-secchi@dcu.ac.jp URL : <http://www.dcu.ac.jp>